

○○上伊那

平成30年2月5日

人間の究極の幸せ

日本は「少子高齢化」の時代に向かっています。また、若年者のいわゆる「ニート」の率が年々高くなっていることや、ひきもりの長期化・高齢化が進んでいる等の問題も指摘されています。さらには、毎日のように命が奪われる事件が発生しています。いったい日本はどうなってしまったのでしょうか。

教育は将来国を担う若者を育てる責務を負ってきたわけですが、このような現実が突きつけられています。いったい誰がこれからのこの国を支えていくのでしょうか。老若男女、障がいの有無にかかわらず、すべての人がその役割を担っていることは言うまでもありませんが。

機会があり、「株式会社柿の木農場（長野市）」を見学しました。この会社は正社員41人中、知的障がい者18人、身体障がい者1人、精神障がい者3人を雇用し、主にえのき茸の生産販売を行っています。始まりは、養護学校からの現場実習の依頼だったそうです。柿島社長さんは当時について、「障がい者は仕事ができないと決めつけていた」と振り返られ、「知らないということからくる差別」「気づかないことからくる差別」があったと語られました。見学したときも、障がい者の皆さんが生き生きと働いていました。

社員80人中60人の知的障がい者を雇用してチョコレート製造を行っている「日本理化学工業株式会社（川崎市）」で障がい者雇用を進めてきた大山会長さんは、「人間の究極の幸せは4つあります。一つ目は、人に愛されること。二つ目は、人に褒められること。三つ目は、人の役に立つこと。四つ目は、人に必要とされること。だから障がい者の方たちは、施設で大事に保護されるより、企業で働きたいと考えるのです。」とされています。

この2つの会社の取り組みは、これからの国を誰が支えていくのかについてのひとつの答えとその可能性を示していると思います。大山会長さんが言われた究極の幸せを子どもたちが感じて成長していけるような教育や支援を、上伊那においてもそれぞれの立場で責任をもって行い、連携して進めていければと思っています。

皆さんは、上伊那における29年度の取り組みをどう評価されますか。また、自分自身の取り組みをどう評価されますか。それは、今子どもたちが、大山会長さんが言う「4つの幸せ」を感じられているか、そうした姿を示してくれているかということからも評価できるように思います。もうすぐ29年度が終了します。

かみとくれん会長 片桐 俊男（伊那養護学校）

中学校 LD 等通級指導教室「東部 学びの教室」の紹介

伊那市立東部中学校 LD 等通級指導教室担当 大隅光子

今年度より本校にLD等通級指導教室「東部 学びの教室」が開設されました。中学校では県下初の取り組みとなるため、多くの方のお知恵をいただき試行錯誤しながらようやく形が整ってきました。

どのような教室で、どのように運営しているのか、ご紹介します。



「学びの教室」とは？

「東部 学びの教室」は、通常学級在籍の生徒で、学級での学習におおむね参加できるが一部特別な支援を必要とし、発達障がい（LD：学習障がい、ADHD：注意欠如・多動症、ASD：自閉スペクトラム症、等）がある、またはその疑いがある生徒と、そのことで悩んでいる保護者のための教室です。

基本的には1対1の個別指導です。個別の指導計画を作成して、その子その子に応じた指導メニューを組んで取り組みます。生徒の状態に応じて、月1回～週2回程度「学びの教室」に保護者の送迎によって通級することが原則です。通級して学習する曜日や時間帯については、平日の授業時間の中で、保護者や学級担任の先生と相談して設定します。

教室環境は？

日影地区を見下ろす南校舎1階にあり、生徒昇降口を経由しなくても駐車場からすぐに入室できる場所です。L字型の教室の中央には仕切り用カーテンが設置され、必要に応じて仕切って使います。

TV、DVDプレイヤー、CDラジカセ、プリンター、iPadなどの視聴覚機器や内線電話、ホワイトボード、テーブルなどを設置し、教材・教具を少しずつそろえてきました。



教材の紹介

【コグトレ】

不器用な子どもへの認知作業トレーニングです。図や口頭の指示にしたがって体を動かす、力加減、物をコントロールする、指先を使う作業など、実際に体を動かして練習します。

【フォニックス英語】

英単語が読めない子どもへの読み支援のトレーニングです。「英語の文字と音との関係を示すルール＝フォニックス」を学んでいくことで、単語が読めるようになり、スペルや意味がつかめることを目指します。



参考になっている教材の一例

【デイジー教科書】

読みの困難を抱えた子どもの支援に使えるソフトです。教科書内容をiPadなどにダウンロードすれば、文章にふりがながつき、音声で読み上げてくれます。授業の予習などにも効果があります。

【アンガーマネジメント】

すぐにカッとなりトラブルを起ししやすい子どもへの感情コントロールの学習です。「怒り」の仕組みや爆発回避の方法、対処法を学びます。他にストレス対処やアサーショントレーニングもやっています。

指導の様子から

【注意集中や記憶が弱く、読み書きや英語が苦手なAさん】

○通級教室での授業

ビジョントレーニング (10分)

- 「ナンバータッチ」…1~20までの数字を探して速く読むトレーニング
視野を広げつつ目玉を素早く動かす訓練
「言葉探し」…連続したひらがなやカタカナの中から単語を3つずつ
見つけて読むトレーニング

フォニックス英語 (20分)

- アルファベットの発音練習から単語の読みを推測し、単語の
日本語訳を選び答えていく

デジ教科書を使って予習・復習 (20分)

- i P a dを操作しながら、読みを聞いて復唱したり意味を確認したりする
英語：既習ページの基本文の読みと意味 予習ページの読みと単語の意味
国語：クラスの古文暗唱テストに向けて、読みを聞きながら復唱していく

○担任や保護者との連携

- 毎回、連絡帳にて通級授業の様子を伝えます。
デジ教科書の利用法や申請方法を伝え、自宅での活用を検討してもらいました。

○向上してきたところ

- 読める英単語が増えました。デジ教科書を使って家庭での予習復習を考えています。

【人との関わりや距離感に課題があり、ボール運動や筆記が苦手なBさん】

○通級教室での授業

協調運動トレーニング (10分)

- 「棒運動」…DVDを見本にして、棒を回転させて投げキャッチする
ものを使いながら身体を動かす粗大運動のトレーニング

ビジョントレーニング (10分)

- 「テングラムパズル」…大小いくつかのピースを組み合わせて見本どおりの形を作る
空間認知や部分を組み立てて全体を捉える力の訓練

アンガーマネジメント (20分)

- 「6秒ルール」…怒りの仕組みについて知り、爆発回避の方法を考える
実際の場面を振り返りつつ、選択肢の中から見えそうなものを選ぶ

道村式漢字学習法 (10分)

- テスト範囲の漢字の中から、漢字の部品を音声化して唱えることで覚えていく
音声入力得意であることを生かして、唱えて覚える漢字練習法を学ぶ

○担任や保護者との連携

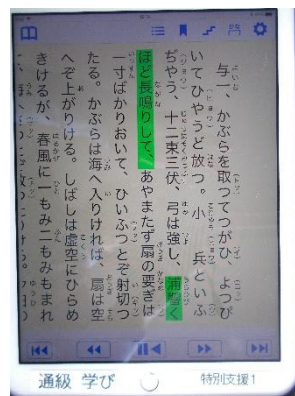
- 毎回、連絡帳にて通級授業の様子を伝えます。
日常生活の様子を情報交換し合い、達成できたことや課題を確認しています。

○向上してきたところ

- 対人トラブルが減り、クラスメイトと良好な関係が保てています。

来年度以降は…

今年度は本校のみの受け入れでしたが、来年度以降は伊那市内の中学校（伊那中、西箕輪中、春富中、高遠中、長谷中）も対象とします。ご心配な生徒さんがいらっしゃいましたら、各校の校内委員会でご検討の上、まずは巡回相談をご依頼下さい。



デジ教科書

伊那養護学校における上伊那歯科医師会の歯科保健活動について

上伊那歯科医師会 広岡明美

障がいのある児童・生徒は一般的な歯科治療に際しても遠方の大学病院や障害者専門歯科医院に通うことが多く、時には全身麻酔下での歯科治療を受けなければならない現状があります。そこで「地域の歯科医院へも通院できるように」また「地元の歯科医師側にもより慣れてもらうために」という趣旨で事業が始まりました。一般的に学校は集団歯科健康診断であり、集団歯科保健指導です。それぞれの学校歯科医が歯科健康診断・歯科保健活動などを担当します。しかし平成 25 年度から伊那養護学校で取り組んでいる歯科保健活動は、当校の学校歯科医のみではなく上伊那歯科医師会の多数の歯科医師と上伊那口腔保健センターの歯科衛生士が参加しています。

この事業の前身は、平成 21 年度より長野県歯科医師会の「8020 運動推進特別事業の各ライフステージにおける口腔機能の育成・向上」支援事業の一環で「特別支援学校におけるモデル歯科保健事業」として、はなももの里分教室で始まり同事業は 2 年間継続しました。

「ぼくの歯医者さん・わたしの歯医者さん」として一人の児童に一人の歯科医師を担当とし、事前に担当教諭と打ち合わせを行い、歯科医は白衣姿でなく普段着の写真をクラス担任に渡し、児童に顔を覚えてもらうようにしました。さらに数回に渡り教室への顔合わせに行き、歯科医参加授業当日を迎えられるように準備をしました。歯科医師側は担任から得られた情報から児童の個性をなるべく把握してどのようにアプローチするか、またそれぞれが考えたツールなどを用意して授業に臨みました。当日の授業ではまず、歯科衛生士がエプロンシアターを行い、歯を大切にするための食生活で注意すること、食後の歯みがきが、とても大切であることを人形や小道具を使い表し伝えました。児童達は演じる歯科衛生士との掛け合いに応ずるなど積極的に参加してくれました。その後、児童と歯科医師が対面で日ごろの口のことに関する相談（可能な限り保護者にも参観いただきました）や歯磨き指導を行いました。普段は大層てこずるという児童でも口を開けて、歯磨き指導を受けるなどの様子が見られ、教諭や保護者を驚かせてくれました。すんなりと打ち解ける様子の児童が多かったことにクラス担任の先生方は驚かされていました。

平成 23 年度からはこの事業を上伊那歯科医師会が引き継ぎ、現在まで毎年行っています。回数を重ねて、はなももの里分教室では、ポータブルユニット（持ち運びができる歯科診療装置）を教室内に運び込み、実際に児童がそれを手に取り擬似歯科治療体験も行いました。大きな音がする道具を手に取り、怖がる様子もなく受け入れてくれました。歯型をとる歯科材料で歯型や指型を採り、仮歯の材料を使って自分の歯の模型をつくる体験もしました。このように道具や材料に触れることで、歯科医師や歯科治療をやみくもに怖がらないようにと体験を重ねました。歯科医師側も一度に多数の個性の違う児童に接する機会を得て臨機応変に対応する術を得ていきました。歯科医院側はスタッフも帯同して個性のある児童に接する機会を持ち、双方の垣根が少しでも低くなるような取り組みとして事業の回数を重ねました。

平成 25 年度からは、伊那養護学校で 4・5・6 年生を対象に、同様の歯科保健活動を継続しています。活動内容に高評価をいただいても、対象学年を増やすことは人的にも資金的にも容易でなく、限定した学年対象事業として実施しています。

地域の一般歯科医院へ通うことができた児童・生徒さんの話を聞く機会が増えことは、それなりの成果ととらえています。また若い歯科医師の経験の場としても着実に成果を上げています。

地域に暮らす障がい児・者を生涯にわたり支えるためには、地域住民や多職種連携での支えは不可欠といわれます。今後の障がい児・者への歯科保健活動・歯科医療を考えると、この上伊那の地域でできる限り支えていくには、本事業を歯科医師会単独で継続するのではなく、学校の先生方、保護者の方、福祉関係の方などの支援する方々で構成する協議会を作り、多方面との連携を取りながら活動を展開していくことも必要ではないかと考えています。「協議会」として活動すればより安定して継続的にかつ厚みのある事業を行うことができるはずで、そのことは将来に渡り障がい児・者を支える環境を整えることにもつながると考えています。それまでは、上伊那歯科医師会として個々の歯科医師の立場で本事業に力を注ぎ続けたいと思います。